

日本スポーツとジェンダー研究会・研究交流会

「スポーツの場におけるホモソーシャルな絆」

関西学院大学社会学部・阿部潔

クレオ大阪西 18/09/02

0. 「スポーツの場におけるホモソーシャルな絆」をテーマとすることの目論み

- ・ジェンダーとしての「男らしさ」を象徴的に表象する場としてのスポーツ
相互補完的なジェンダー研究への足掛かりとして
- ・セクシュアリティとしての「男らしさ」を隠喩的に表象する場としてのスポーツ
セクシュアリティ研究への足掛かりとして
- ・現代社会における「男らしさ/女らしさ」の縮図/結晶態としてのスポーツ
ジェンダー/セクシュアリティをめぐるポリティクスの分析に向けて

1. 「男らしさ」とホモソーシャル

スポーツにおける絆 = 「男同士の友情」が遂行するジェンダー/セクシュアリティ関係

- ・マッチョな「男らしさ」の自明視と再生産 克己と自己犠牲としてのスポーツ
- ・「男だけの世界」からの女性の排除 スポーツにおける misogyny (女性嫌悪)
- ・「男らしさ」の脱エロス化 ホモエロティシズムの隠蔽とホモセクシュアリティの抑圧
- ・性的な対象 = 獲得物としての「女性」 男性中心主義的な異性愛の神話化

しかしながら、男同士の「ホモソーシャルな絆」には、規範的なジェンダー/セクシュアリティを揺るがすような「脅威」が常に既に潜んでいる。なぜならば、実際にはホモソーシャルな関係とホモセクシャルな関係との境界は、極めて曖昧なものにならざるをえないからである。それが故に、ホモソーシャル ホモセクシャルと看做そうとする文化・社会的な装置が作動することになる。

2. 「ホモソーシャルな絆」に潜む脅威を「無害化」する表象戦略

- ・「ホモソーシャルな絆」の脱エロス化
力強く/理性的で/自己制御ができる「男らしい」男性同士の自然で健全なる連帯
ナショナリズムが描き出す「男らしさ」 = 兵士のイメージ 市民的価値観
(respectability)の枠内における「男らしさ」の表象と同性愛の排除 (Gモッセ)
- ・「女らしさ」との対比による「ホモソーシャルな関係」のヘテロ・セクシャル化

対象 = 獲得物としての「女性」を描き出すことによる「ホモソーシャルな絆」のヘテロ化（ホモエロティシズムの抑圧 / セクシズムの奨励）

近年のメディア化されたスポーツ表象における「可愛い女性アスリート / 友情 = ライバルとして男性アスリート」のイメージ（ソルトレーク・オリンピックのメディア分析）

3. スポーツにおける「女性」というプロブレマティーク

- ・「スポーツする女性」が引き起こす規範的ジェンダー / セクシュアリティの揺らぎ
スポーツすること = 力強さ = 「男らしさ」とのジェンダー / セクシュアリティ規範への挑戦（「女らしさ」 = しなやかさ = か弱さとの規範からの逸脱）
- ・「男性と同じように」スポーツにおいて身体能力の高さを発揮する「女性」
マッチョで家父長主義的な男性中心社会に対する潜在的な「脅威」

4. 「スポーツする女性」に潜む脅威を「無害化」する表象戦略

- ・規範からの「逸脱者」としての女性アスリートの表象
「女でない女 レズビアン」としてのスポーツする女性
身体能力において優れている女性 = 「スポーツする女性」は「男のような女 = 女でない女」として男性中心主義の眼差しによって描き出される（女性がスポーツに参画しはじめた初期に典型的な「スポーツする女性」の表象）
「逸脱者」として他者化することによる脅威の無害化
- ・「女らしさ」の強調による女性アスリートのヘテロ・セクシャル化
「身体能力の高さ」ではなく「身体的美しさ」への照準
ヘテロな男性の眼差しに基づく「魅力的なスポーツする女性」の表象
力強く / 逞しく（しかしながら同時に）美しく / 可愛い「女性」（「クロニコワ・シンドローム」が意味するもの）

5. 「ホモソーシャルな絆」と「スポーツする女性」の表象における抑圧

「ホモソーシャルな絆」と「スポーツする女性」に潜む脅威は、メディアによる巧妙な言説戦略によって無害化されがちである。しかしながら、そうした無害化に対抗すべき言説戦略の可能性を、私たちは探っていかなければならない。その際に、支配的で規範的なメディア言説において抑圧されている「語り」の可能性を問い直していくことが必要であろう。

- ・「男同士の絆」のホモ・セクシャル化 「ゲイ・スポーツ」の可能性と課題
- ・「女らしさ」の脱エロシ化 サイボーグ・フェミニズム（D.ハラウェイ）の実践としての「スポーツする女性 マシーン」の可能性